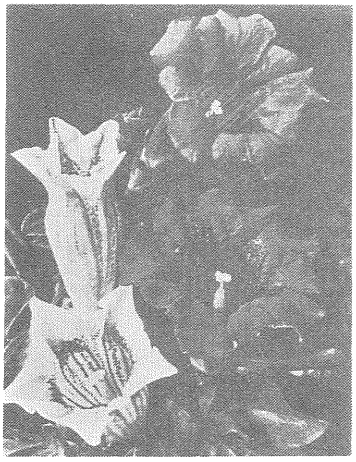


第41図
アルプスで最も普遍的な高山植物　みやまりんどう

スイスの自然と人々
（その3）

星野一男

12. スイス人というものは存在するか？

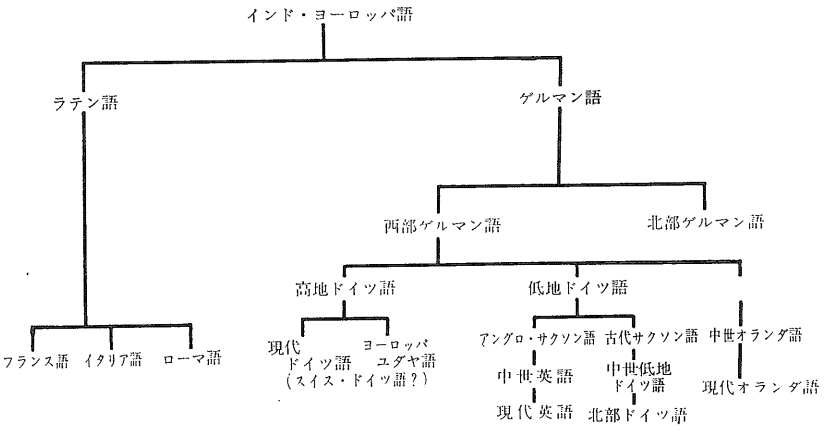
スイス人とは一体何なのだろうか．　われわれが日本人という場合　普通には　日本に住み　日本語を話し　日本人から生まれた短身　黒髪　黒目の人を思い浮かべる．　ドイツ人　フランス人という場合も　一般的にまずフランス語　ドイツ語を話し　フランス　ドイツの国土　人々と繋がりを持っている人のことを考える．　人種的に多様な起源を持っているアメリカですら　アメリカ英語という共通の言語の下にまとまっている．　しかし　無数の山と谷からなり　3つの異なった文化をもち　4つの異なった言語を話すこの国の人々は　共通の言葉スイス人という名で呼ぶことが可能なのだろうか．

たとえば文化圏という立場から見る場合　チューリッヒやベルンに代表されるドイツ系地域は街並の様子　家屋建築の様式　服装などを見ても明らかに同じ国のフランス系　イタリア系などの地域よりもドイツに近く　外国人の目には仮りにチューリッヒ　ベルンが南ドイツの一部であっても何等不自然なことはないのである．　同じことはジューネーブ　ロザンヌなどのフランス系地域ロカルノ　ルガノなどを含むイタリア系地域についてもいえる．　通りすがりの旅行者の目だけではなく　接触の機会が重なれば重なるほど　これ等の地域はむしろフランス　イタリアの一部である方がより自然なのにと感ずるようになるのである．

ドイツ系とフランス系と　この2地域の人々は人種的に起源が別であるばかりか　気質は全くといってよい程違う．　ドイツ系の人々の勤勉　几帳面さはフランス系の人々にとっては美徳ではなく　野暮ったさと映るらしい．　フランス系の人々の快活さ　人なつこさはドイツ系の人々にとってはだらしなさを示す欠点以外の何ものでもない．　この国の西のジュネーブから　ベルンをへて東のチューリッヒに連なる線は　日本の東海道―山陽線のような　文化　経済の集中した大動脈である．　しかるに　われわれ外国人にとって奇異としか感じられないのは　ハイウェイが両系の〝国境〟で切断されていることである．　チューリッヒを出てジュネーブに向かったとしよう．　ベルンまではこの国で一級の　ドイツのアウトバーンにも比肩すべき良いハイウェイがあり　およそ 120km を一時間そこそこで到着する．　ところがベルン　ロザンヌ間はハイウェイがない．　ロザンヌに至ると再びみごとなハイウェイがジュネーブまで通っている．　ごていねいなことに　ベルン―ロザンヌ間でベルンすなわちドイツ系に近い方は片側1車線　所々に追越可能な点線のマークをしてある．　チューリッヒ近傍で　まず普通に見かける型の道路なのに　半ばをすぎてロザンヌ寄りになると　道路は3車線で仕切られ　中央帯が左右車線から交互に追越車線として使われるというフランス国内でよく見かける型に変わってしまうのである．　この辺で車を停めて道を訊ねるために通りすがりの農夫を止めたとしよう．　彼にしろ　彼女にしろ　ドイツ語で話しかけても知らん顔である．　本当にこの人達はフランス語しか話せないのだ！．　同じ国の中でしかも　10km 先きの人はドイツ語で生活しているというのに．　ロザンヌから一時間ちょっとでジュネーブを抜け　フランスとの国境に達する．　スイス側の税関もフランス側の税関もまず〝ボン・ジュール〟とあいさつする．　ゲイトさへなければ誰がここから先きが異なった国なのだと気が付くだろうか．　われわれ外国人にして見れば〝事実上の国境〟はもう過ぎてしまっているのである．　12世紀の昔に　ベルン地方の領主がフランス人からゲルマン族の土地を守るために当時の接触点に近いベルンの地にはじめて城を築いたという　その心情は現在でもきわめて自然に理解されるのである．

すでに述べたようにスイスでは　ドイツ語　フランス語　イタリア語　ロマンシュ語が〝国語〟として憲法で認められているが　公用語は前3者である．　公用語という意味は連邦政府の公文書はこの3ヵ国語で記載される連邦議会では　3ヵ国のうち1つを誰でも話せる　裁判所などでは　各人は3ヵ国語のうち自分の言語で話す権利がある　ということである．　具体的な状況を頭にうかべて見よう．　チューリッヒ州出身議員はドイツ語

で演説する．　ジュネーブ州出身議員はこれに対してフランス語で答える．　問答に不満なテッシン州出身議員はイタリア語で口をはさむ．　日本人にはまことに珍しい風景だが　これに類したことは大学内でも日常茶飯事である．廊下で出合い頭にドイツ語で話しかけられる．　当方はこれに構わず英語で答える（英語しか話せないから）．　私は先程からドイツ語と書いているがスイスで話されているドイツ語はスイスドイツ語と言ってドイツ国内で話されている低地ドイツ語（北部）や高地ドイツ語（南部）とはかなり異なる．　スイスドイツ語は　高地ドイツ語の一派といわれているが　私の経験では現代ドイツ語と英語の中間　つまり非常に大胆で専門の人から笑われるかも知れないが　古代ゲルマン語がドイツ語や英語に分化した頃の古いゲルマン語の形態を残しているではないかと思う．　冠詞はむしろ英語に近い．　スイス・ドイツ語の文章を普通のドイツ語の辞書で読もうと思っても全然てがかりがない．　子供が幼稚園でおぼえて来た言葉を聞くと　発音　文法などむしろ英語の方言ではないかと思うほどである．



第42図　言　語　系　統　図　（ウエブスター辞典による）

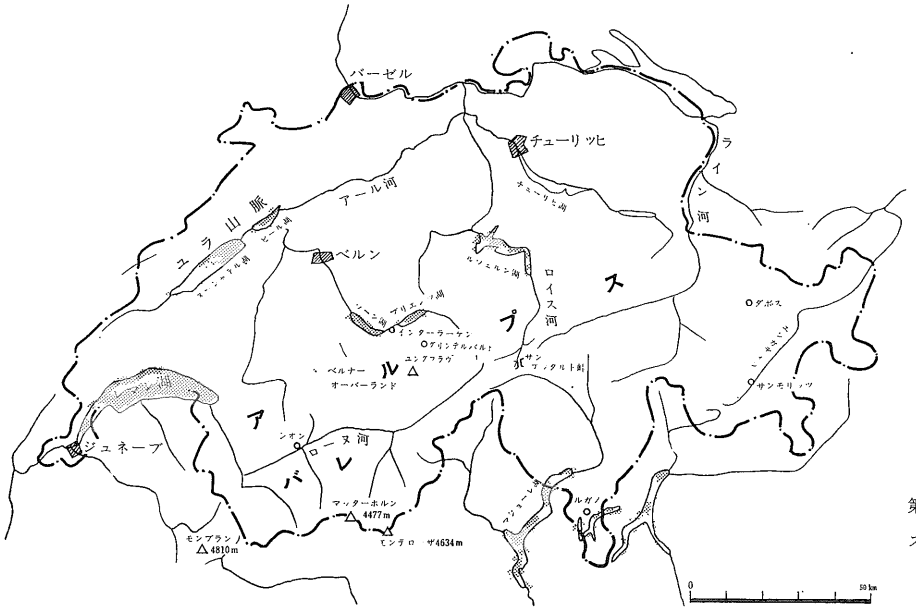
工科大学のお茶の時間などには人は無論スイスドイツ語で話す．　さっぱり解らない．　筆者にとってユーゴスラビアの言葉と同じである．　ところが　本当の（と言うのもおかしいが）ドイツ人が入ると高地ドイツ語で話す．　これは筆者が習ったドイツ語なのでやや理解できる．　面白いことにこの先生方が教壇では高地ドイツ語で講義をする．　何故スイスドイツ語でしないかというと　学生の中にはフランス系　イタリア系地域からの人もいる訳である．　この人々は筆者と同じように高地ドイツ語をドイツ語として学んだので　スイスドイツ語では解らないからである．　つまり　同国人なのにドイツ語系統の言語を話す時ですら　自国のではなく　他国で使われている（標準）ドイツ語を使わなくては意志が疎通しないのである．

このような人達が何故１つの国を作ったのであろうか．外国人にはチューリッヒはドイツに　ジュネーブはフランスに入っていた方が自然だと思えるのに　なぜスイスとしてまとまらなければならなかったのだろうか．

第43図　商品ですら　独　仏　伊の３国語が併記される

13. 連 盟 の 成 立

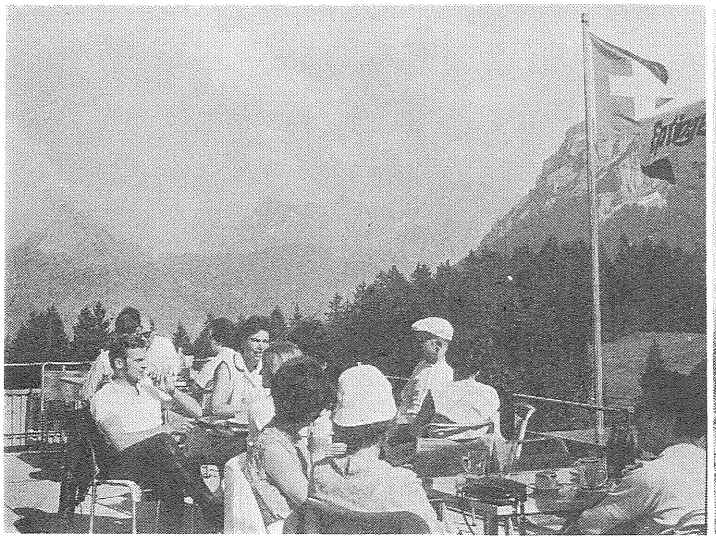
スイスの国家的結合の本質を理解するためには　スイス国成立の事情を詳しくふり返って見なければならない．1848年の連邦憲法によってスイスは近代的国家としての第一歩を印したといわれている．　1848年までのスイスは相互協定によって互いに協同して外敵に当ることを誓約しあった州国家の連合にすぎなかったのである．　各州はそれぞれ特有の法律や通貨や切手を持っており　しかもそれらはひどく違っていた．　軍隊も連邦制をとらず　各州の割り当て兵によって構成されていた．　そして　一つの州の住民は他の州に自由に入居することすらできなかったのである．　その独立性においてまさに戦国の徳川時代の諸藩と同じようなものであった．　1848年以後もこの本質的部分は少しも変わっていないのである．　通貨や切手も共通となった．　軍隊も連邦兵として統一されるようになった．　だが　各州は依然としてそれぞれの憲法をもっている．　すでに述べたように初



第44図
スイス概略図

等教育など異なった独自の方法で行なっている．　細かいことをいえば　スイスの国名は　Schweizerische Eidgernossenschaft である．　Eidgenossenschaft は連邦とか連合とか訳されている．　しかしスイス人は今でも中央政庁のことを Confédération と呼んでいる．　これは連邦というよりももっと緩やかな結合　連盟という如き意味をもっている．　スイス人にとってスイスは連邦ではなく　各州の連盟なのである．　スケールははるかに違うが国際連合の如きものである．　連盟が成立したときに近代国家として首都がなければならないという問題が生じた．　しかし　スイス人は「連盟」に１平方メートルの領土も分かち与えなかった．　米国とか　オーストラリアのような連合国家ではワシントンやキャンベラに連邦領というのを持っている．　スイスではまず首都をどこにするかで最強の州　ベルンとチューリッヒの間で激しい抗争がもち上った．　そして遂にチューリッヒがフランス系　ドイツ系のほぼ中央に位置しているという事でえらばれたのだが　スイス人は寸土も連邦政府にならなかったのである．

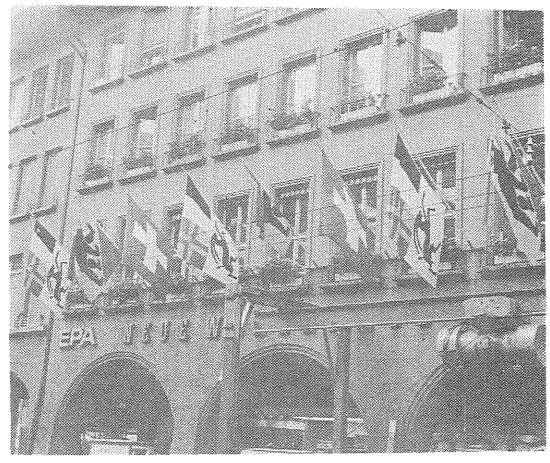
連邦政府は　ベルン州から土地を借りているのである．当初はどの州も　どのコミューンも連邦政府のために金



第45図　峠のレストランでくつろぐスイス人　背景はヘルベチック・アルプスの前縁とモラッセの山々

第46図　チューリッヒ郊外の民家

第47図　ベ　ル　ン　の　街　頭



第48図　ベルンの中央通りの窓を飾る各カントンの旗

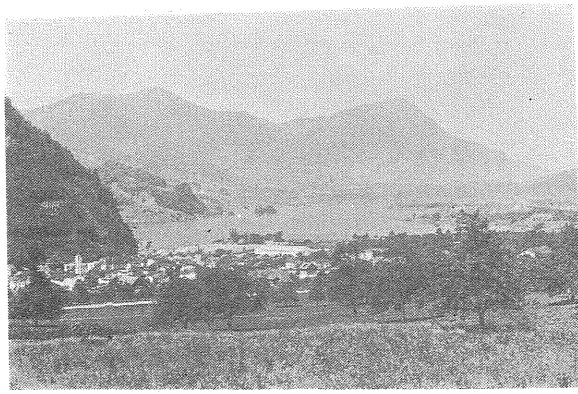
を出そうとしなかった．　連邦政府は７人の大臣からなる連邦政府を維持するためにどの州にも属しない財源である関税を当てる以外になかったのである．

これはおよそ国家として考え得られる最も緩やかな結合である．　国家は作りたくないのだが仕方がないからいっしょになろう．　いやいや国家を作ったという印象である．　なぜスイス諸州は「連盟」を作ったのであろうか．　最も大きな理由は諸州の置かれた地理的環境の特殊性である．　スイスはドイツ　フランス　イタリアなどの文化圏の辺境であった．　田舎者である．　ルソーは同時代では最も卓越した思想家であったが　スイス出身であるがために　パリのサロンではスイスの熊と蔭で嘲けられていたと伝えられる．　辺境は中央集権国家では必ず冷遇される．　文化的　政治的には片田舎ではあったが　スイスはヨーロッパ交通路の要めを押えていた．　時によれば住民は平原の人々よりはるかに急進的戦闘的であった．　たとえば　チューリッヒ　ジュネーブは16世紀の宗教改革では新教派の有力な拠点であった．時代の動きを最も速くキャッチし　最も敏感に反応する位置にあったのである．

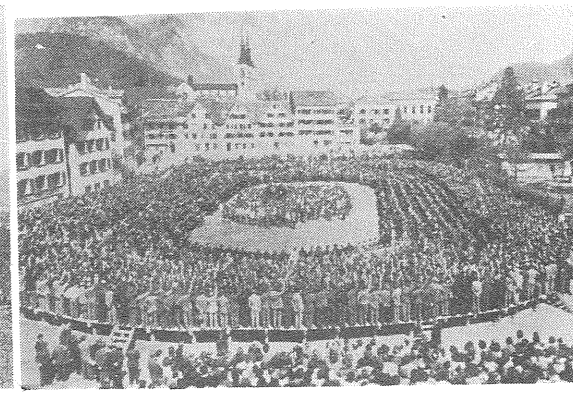
辺境の住民　アルプスの人々は中央の人々と到底利害を共にすることは出来なかった．　同一国家の翼下に入れば安全は保障されるが　従属と収奪の運命を覚悟しなければならない．　勇気ある人々がそれよりも独立の道を選んだ．　しかし強国の間で生き残るには勇気だけではことは運ばない．　かくて　諸州は協定を結び　相互防衛を約した．　言語も　伝統も　文化も異なる異民族同志がただ相互防衛の必要からのみ団結するのである．弱少な諸州にとって団結は至上命令である．　したがって盟約は団結にとって最小限度の事しか規定し得ない．ヨーロッパ諸国が絶対王権体制から近代的中央集権体制へ移行するに従い　盟約の条文も現代的なものに改められて来ているが　その精神は1291年のシュウィッツ盟約以来変わっていないのである．

14. スイス人の物質

スイス人というのを日本人とかフランス人とかと同じ

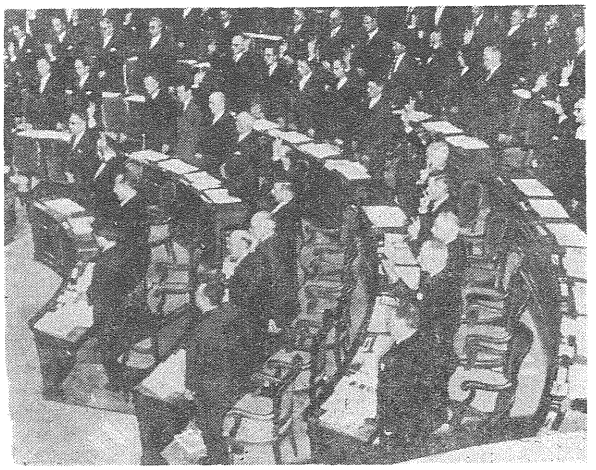


第49図　ノイシャッテルに近いユラ山地の農村



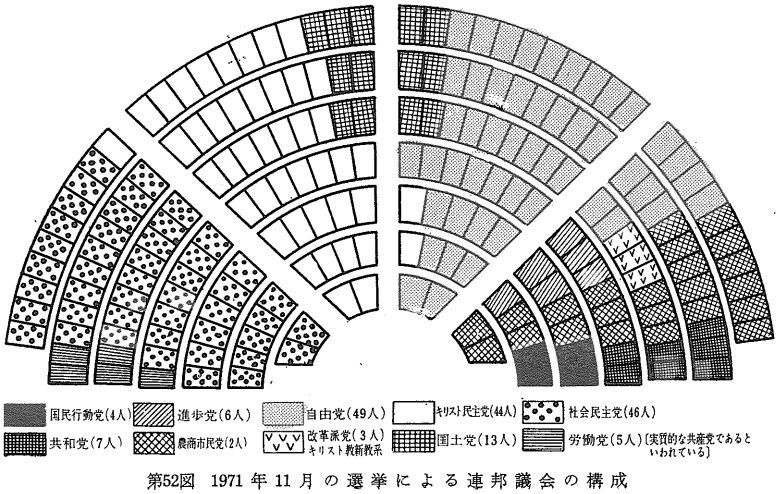
第50図　今でもカントン・グラルスでは　５月の第１日曜日に全市民を集めた民会が行なわれる

意味で規定するのはむずかしいが　スイス人に特有気質というのは確かに存在する．　これは　ほとんどスイスの特殊な地理的風土　歴史的背景に由来するものである．第一に現実主義　プラグマテイズムである．　スイス人は起源が多様であるように意見も多様である．　この国には主要なもののみを算えても約10におよぶ政党がある（第52図）．　しかもスイスは国際政治の上で小国であるから提示された問題に対して直ちに答えなければならない時が多い．　このような国では直接民主主義が最上の体制と考えられているし　すでに述べたように　最も明瞭な形での直接民主主義を操っているのである．　直接民主主義では物事の可否は多数がそれを支持しているか否かで決まる．　ところで　現実的な事象に対して多数意見を集めることは容易だが　抽象的　論理的事象に対してはむずかしい．　過去1世紀もの間　周辺の大国が浮沈を繰返した中にあって　中立　平和の国是を踏み外さずに国を保ってきたのはスイスのこのみごとなプラグマテイズムにほかならない．　これは同時に幾つかの欠点をもたらす．　スイス国民は明かに形而上的なものに弱い．　スイスには経験はあるが　認識ということはむずかしいといわれる由縁である．　外国人が感ずる居心地の悪さはこの辺に原因がありそうである．　極端な規則主義　完全主義は時としてこの国の美しい自然とは相容れない氷のような壁を異国人に感じさせるのである．一例を挙げよう．　スイス人は些細なことでも物事を具体的にキチンと定めるのが好きである．　私の家はチューリッヒの郊外　周囲は大きな牧場に囲まれ　夜半でも牛の鈴の音がこだまするまことにのどかな所だが　こんな所でも駐車すべき場所はきちんとペンキで枠がつけられ　綺麗なPのマークが立てられる．　彼等はこの周囲は芝生とか樹木で飾るから他人目には美しい田園風景を損わないまことに適切な措置であって　スイス人の自然



第51図　ス　イ　ス　連　邦　議　会

愛好心のあらわれであると感心するであろう．　ところが　日本ならば奥多摩の山の中に相当するこの露天の駐車場は有料であって　借人は地主に月2,000円もの駐車場代を払わなくてはならないのである．　しかし　何しろ牧場を隣り合わせの田舎だから道の傍にも駐車場の傍にも余分な土地はいくらでもある．　時々　訪問者などがこのようなところに駐車する．　私が住みついて間もなく　この道路に駐車禁止を示す標識が立てられると同時に地主から長い　いかめしい手紙が送られて来た．辞書を片手に大汗かいて読み下すと　何のことはない　今般この地域の駐車場が整理されて違法駐車は罰金を課せられることになったから　駐車場を必要とされる向きは地主と契約をされたいというだけのことである．　スイス人のこの種の数字主義　経済主義（端的にガメツイという人がいる）の例を上げたらそれだけで1冊の本ができる位である．



第52図　1971年11月の選挙による連邦議会の構成

少し次元を上げよう．　直接民主主義の大きな欠点は　社会を前進　変革させる働きを自ら封じ込めてしまうことである．スイスのように平均2,000人前後の地域毎のコミューンが政治に第一義的意味を持っている国ではとくにこの傾向を避けることは出来ない．　この国から学問　芸術などの面で他国をリードする独創的な人々の出現を見るのはきわめてむずかしいであろう．

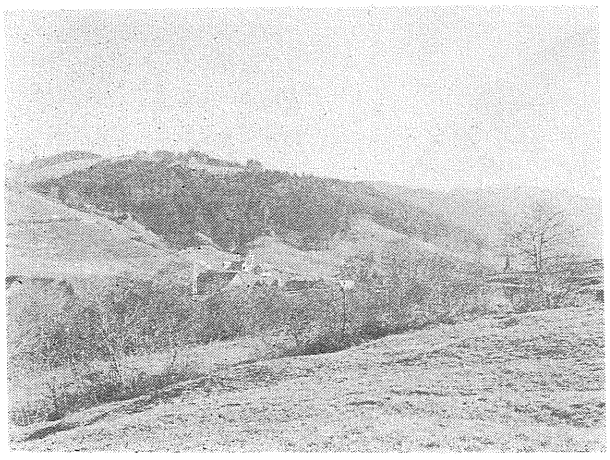
特質の第二は寛容さである．　こんな話がある．　レートロマンス語はグラウビュンゲン州を中心に５万人一人口がわずか１％が話すだけである．　それは2000年前にスイスがヘルベチアとしてローマの支配下にあった頃に由来する化石語である．　グラウビュンゲンの住民自身がこれでは周囲の人と話し合えないので学校でドイツ語を学んでいる．　しかし　スイス人はこの死語を禁止して　国の統一を容易にしようなどとは考えずに　逆にいろいろの保護を与えてロマンシュ語地域を保存しようとしているのである．　第２次大戦でスイスは南北の強国　ドイツとイタリアからレート・ロマン語を国語から追放すべきであるという干渉を受け　そのためこの問題は重要問題として国民投票により決定されることになった．　その結果　スイス国民はレート・ロマン語を認める意志表示をして自国の少数民族を強国の牙から救ったのである．　今日でも　この地域　たとえばエンガデインの谷をドライブする人はサンモリッツ（St-Moritz）という字と並んでレート・ロマン語のサンミュレザン（San Murezzan）が並んでいる標識を見ることができだろう．この行為は文化遺産を守ろうという種類の感情的衝動から発したものではない．　スイス連邦を構成する州はすべて平等であるという憲法の現実的解釈の結果なのである．　スイス人の現実主義と寛容と　これは一見矛盾するように見えるが根源は１つである．　いずれも列強の間に伍して弱少者同志が連盟を保つための智慧であるということができよう．

15. 中立主義と兵役

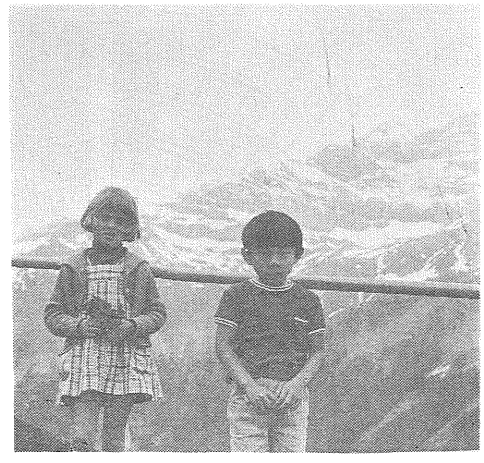
スイスについて語るときに　その中立主義について片言をも書かないのは許されないだろう．　時計　チョコレート　観光と並んで外国人がまずうかぶイメージは　中立だからである．　第２次大戦直後　わが国の某首相はアジアのスイスたることが日本の理想であると述べている．　中立と兵役に関する以下の記述は私の見聞でも意見でもなく　スイスが1970年の大阪博覧会を契機に作製した資料よりの引用であることをお断りしておく．このデリケートな政策については当事者の説明自体が最上であろうから．

スイスにおいては中立はドグマ（教理）ではない．それは戦争行為に対する積極的参加を放棄するスイスの一政策である．　中立政策は15世紀以来（7. スイスの誕生参照）スイスの国是となったが　これが世界に公式に認められたのは　1814—15年のウィーン条約以降のことである．　同条約署名国は「スイスの中立と不可侵性およびあらゆる外国勢力からの独立はヨーロッパ全体の政治的利益に合致することを正式に認める」と声明した．スイスの中立はスイスの連邦憲法には規定されているが国際的には片務的なものである．　憲法はスイスを戦争に巻き込む可能性のあるすべての行為を禁止しているがこれはスイスの任意的規定にすぎない．　したがってスイスは中立を守るために相当の軍備をしているのである．

スイスは危急の場合　直ちに全人口の１割に当たる60万の兵力を配備できる実力を持っている．　周知のようにスイス軍の基礎は国民皆兵制度にもとずく民兵である．肉体的欠陥がない限り　男子は20歳で新兵学校に入る．４ヵ月すると軍に配属され　歩兵　砲兵　工兵　戦車隊などの任務につく．　この後は特殊な兵科をのぞいて本来の市民生活の中から１年に３～２週間軍役に服することになる．　21から32歳までは戦闘部隊に編入され有事の際は直接の戦力になる．　この間に８課程に分かれている戦闘教練課目をほぼ１年に１課程づつつ消化して行くのである．　32歳から42歳は国土防衛部隊に編入され



第53図　スイスの母胎となったシュウィッツ州は　今も牧畜のみで生活している山間部の古い村



第54図　山深い谷間では道行く人を止めて　香り高いみやまりんどうを売る小供（左）も見られる

第2戦的役割を演ずる．　この年齢でも1年に1～2週間の教練課目を受けなければならない．　43歳から50歳は国土監視部隊に編入され　在郷防衛隊の役割を引受ける．　この他にミラージュ戦闘機などを持つ空軍や2コ師団の戦車隊を持ち　またスイス独自の地形を利用して活躍する　山岳機動隊や平原機械化部隊などを持っている．

（1年に2～3週間の軍役は馬鹿にできない頻度であって　観光客といえども通常道路で訓練中のスイスの軍隊を見た人は多いであろう．　民兵は小銃および軍服を常に自宅に保存しておく．　隣の禿げたお百姓さんが今日はかっこいい軍服姿でわれわれを吃驚させるなど日常的風景である．　スイスのように国土がすべて陸続きの国では　これは非常に便利なことである．　各家には実弾もあるのだから　緊急の出動命令があれば　武装兵は各戸から直接に出動して短時間の間に国境に展開できるのである．）

幸いにしてスイス民兵が戦場でその実力を発揮しなければならなかった時はなかった．　世界一美しい兵隊とヤジられながら　スイス軍は侵入者があれば断乎挑戦に応ずる姿勢を決してくずさない．　スイス軍の存在意義は　どの国に対しても　もしスイスを占領したとしても大出血を与えて　スイスを攻撃することは引合わない仕事だと事前に悟らせることにあるのである．

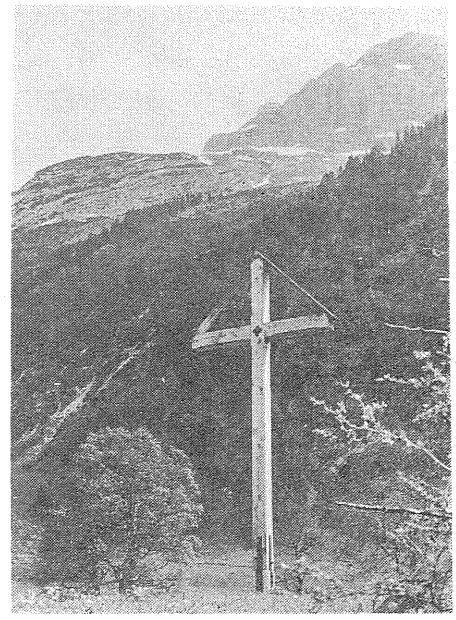
（最近の例では第2次世界大戦のとき　ヒトラーはスイスの参戦を求めた．　スイスは国民投票の結果これを拒否し　直ちに60万の戦闘部隊を召集して万一の場合　国土を戦場とする態勢を示した．　さすがのヒトラーもアルプスの山野でスイス人600万を相手にする愚を悟って　スイスは中立を守り得たのである．）

16. 第2次大戦後の繁栄

スイスは今スウェーデンと並んでヨーロッパーの繁栄を誇っているが　歴史的にみればこれは例外的時代だと言える．　西方の豊かな国を目指してユラ山脈を越えようとした古代ヘルベルチャア(ヘルウェテイ族)の話（その一参照）に象徴されるようにスイスは山間の貧しい国だったのである．

100年前　スイスの人口は今日の1/2にも満たない270万であったが当時でもその人口を養い切れず　失業と就職難になやまされていた．　外交官の大きな仕事はもっと土地の広い　もっと経済的に恵まれた国へ同胞を送り込むため移民条約を締結することであったという．　フランス革命のとき　フランス人はすべてすでに国王を見捨てていたのに最後までフランス国王の楯となったのはスイス傭兵のみであったことは有名な話である．　辺境のスイス兵は文明かぶれしない勇敢さと忠実さの故にヨーロッパでは評判が良かったが　その陰には外国の傭兵となって働らかなければならない自国の貧困があったのである．　18世紀から19世紀にかけてスイスは分裂と内乱を繰り返えし　政治的に非常に不安定であった．　争点は特権階級擁護か否か　旧教か新教か　中央集権擁護か否かということであったが　常に経済問題が紛争の底流となっていたのである．　1817年　ナポレオンの失脚後に　ロシアのアレキサンドル皇帝は破滅的な飢饉に見舞われたスイス災民に対して　銀貨10万ルーブルを贈ったという話が残っている．　この時皇帝は神聖ローマ皇帝として名目的なスイスの保護者だったのである．　10歳以下の子供が毎日12時間から14時間紡績工場で働いたと言われる．　第1次世界大戦の勃発（1914年）はスイスに更に致命的な打撃を与えた．　現在でもスイスは観光事業をのぞけば経済的に自立し得ない貿易収支型であることは（その二）で述べた．　戦争によって観光事業は崩壊し　工業的にも独　仏　伊に従属していたスイス経済は悲惨な立場に立たされた．　この苦い時機を　スイスは兵役保障　国民年金　労働協約などを法律化する事により乗り切った．

スイスの目ざましい発展は第2次大戦終結の翌日から始まった．　全ヨーロッパが戦争のもたらした破壊と生産能力ゼロという重荷に茫然たるとき　賢明な中立政策によって無傷の経済的遺産と健全な通貨をもったスイスは戦後の第一歩を踏み出すことができたのである．　繁



第55図　アルプスの奥は保守的な気風を今日でも保っておりカソリックの勢力が強い　グラルス・アルプスの谷間に秘められた十字架

栄の原動力となったものは　観光事業の復活であった．観光事業収入は１年に約5,900億円で　国民総生産の９％にあたる額である．　観光による純益は1,400億でこれがスイスの国際収支を黒字にしている．　これと共に工業化も進み　100年前人口の50％をしめていた農民は今日ではわずか10％にすぎなくなっている．

今日の繁栄はスイス人の天性とも言うべき勤勉もさることながら　長い間堅持した中立政策が漸く実を結んだということができよう．

17. スイスと日本―むすびに代えて

スイスについてのささやかな紹介をするつもりが予想外に長くなってしまった．　アルプスの国の持つ不思議な魅力のためであろう．　しかし　地質や研究生活についてはほとんど触れる余裕がなかった．　地質については続篇として別稿に書くつもりである．　大学の雰囲気研究室の機構や学生生活などについてもっと書くべきだったかも知れないが　これまでの説明からは大よその空気は察して頂けると思う．　筆者は1963年から64年にかけての１年間のアメリカ生活　そして今回の２年間のスイス生活を通じて　科学技術を発展せしめるのも　停滞させるのも　その国の一般社会以外の何ものでもないと確信している．　その国の科学的水準を定めるものは社会構造や国民の意識がいかに科学研究に適しているか　また科学者　技術者がいかに緊密に国民社会に結びついているかである．　停滞した社会のなかでは科学者個人がいかに努力しても知れたものである．　火山の高さは基盤の高さが物をいうので　噴出する熔岩そのものによる高さは２次的なものであるのと同じである．

スイスは決して大国ではない．　文化的にもスイス独自のものといえるものは少ない．　国なすわちスイスの言葉で言えば連盟の力が強大になることはできるだけ避けるというのがスイス人の方針なのだから将来ともにスイスが国際的な大国として出現することはまず考えられない．　これを裏返せばスイス人の高まり行くポテンシャリティは自然とカントン（州）を通じて全国の各地に分散されて蓄積されることになる．　だから　たとえばスイス第一の都市チューリッヒの人口60万と聞いて何だこれは東京の５％ではないかと考えるのはとんでもない見当違いなのであって　比較の尺度が全然かみ合っていないのである．　連盟の首都をベルン州におけばその代わりに連邦大学はチューリッヒ州に置く．　連邦議会はベルン州にあるから司法裁判所はロザンヌに持って行くというように絶えず権力が　１地区　１住民に偏しないように心がけている国である．　このような国には大都市への人口集中とか　過疎問題とかは絶対に起こり得ない．　非常に高い乗用車普及率にかかわらず　国土全体が公園のように美しいのも各都市が全国に散在しているからであろう．　住民が平均2,000人として集団であるコミューンあるいは　最多数でも100万そこそこのカントで政治　生活から教育問題まで自決されて行く社会は一面非常に保守的であるというマイナスと　他方物事が住民と遊離しないというプラスを持っている．ずば抜けて特異の才能が伸びる土壌ではないが　社会が必要と認められれば中央とか地方とかの区別なしに　ベテランであろうと新人であろうと自由に発想を育てられる肥よくな土地なのである．　研究者と非研究者の間に起こり勝ちな摩擦もこのような国土ではまれである．

第56図　復活祭のパレードに奉の花を捧げるチューリッヒの少女達

第57図　チロルに近いスイス東部の Zimmerhaus（民宿ホテル）　観光はスイス最大の産業である

アメリカのときでも感じたが　スイスで一層はっきりいえることは　大学・研究所の職員の給料は一般水準に比べてむしろ低い方である．　その代わりに無形の給与社会的尊敬は日本では想像できないほど高い．　生計上の目的だけなら何も大学・研究所にいなくとも　他に勤めた方が経済的には報われる．　だから研究機関には世間並みの利益を追わず　給料は最高ではないが自分の性格に合った道に止まろうとする人だけが集まり　世間もこのような人たちに尊敬を惜しまないのである．

スイスでの生活を通じて筆者が一番感心したことはこの国の人々が建前と現実をみごとに調和させていることである．　入れ物はそのままにしながら中味を何時の間にか変えてしまっている融通性である．　これが最も保守的であるべき政治体制を保持しながら　通りすがりの外国人には世界で最も自由で最も先進的な国であるという印象を与えるスマートさの秘密である．　その秘密のカギは少数意見の巧みな生かし方である．　原則的にいえばスイスは多数意見のみが権力を持ち得る社会である．　そして　概して多数意見は現状維持を好むものである．　真に有効な改革案や重大な提案は当初は少数意見なのが普通である．　日本の１割にも満たない人口で４つの異質の言語を認める寛容さは　建前としては多数意見の方向を採用しながらも　少数意見を無視せず　むしろ同情的に見守って　それが次第に多数の賛成を得られるようになるまでの時をかす寛容さを持っている．これがスイスを単なるヨーロッパの観光公園として終わらせなかった理由であると思う．

地質教室での運営もこのような背景から見ると　いかにもスイス的であるという印象を受ける．　建前としては連邦大学は日本以上に厳格な講座制なのである．　１つの学問分野には１人の教授（Professor）しかしない．地質教室では地質学と層位学がそれぞれ一人の Professor を持っている．　それ以外はおしなべて職員（Dozentn）と呼ばれるだけで助教授とか講師とかの呼名さえもない．　ここだはいわゆる鉱物　岩石関係は別教室になっているが　それでも　地質学の分野がわずか２講座で代表されるとは非現実的である．　それで中味を現実に合わせるためにどうしているかといえば　とにかく建前ではあり得ない教授を作ってしまうのである．　このようにして　古生物とか構造地質を担当する２教授がいるのだが　この教授は Ausserordentlich Professor と呼ばれる．　これに対して　前記の古くからの教授は Ordentlich Professor と呼ぶ．　敢えて日本訳すれば特別（あるいは員外）教授と正教授という所であるが　学内における地位とか予算請求権などは全く平等のように思われる．　建前からいえば Professor 以外の Dozenten は Professor 候補としてのみ存在の価値があるとしか読めないのだが　現実は非常に柔軟に処理しているのである．　特別教授以外の Dozenten でも　アメリカに似て少なくとも　Doctor と呼ばれる人々は教授も含めてすべて学問上平等とみなされ　非常に気楽な雰囲気が支配している．　若い人は学位を取ったあとは他大学　他機関に就職するのが普通であり　80％近くがスイス外の国に職を求める．　そしてある程度の仕事をして自由にもどる．　Professor と呼ばれる人の多くはそのような経歴の持主である．

小国であるがために　また周囲の大国の蔭にかすんでしまっていたために　あまり目立たない面もあるが　スイスの地質学界の水準は他のヨーロッパ諸国と比較して決してヒケは取らないと思う．　このような恵まれた背景に支えられている研究者が伸びないはずはあり得ない．

日本とスイスは片や中央集権国家　片や地区分権国家と政治体制の上で大きな相違があるが　大国にはさまれながらも経済的に発展しつつある点　文化的に世界の主流から外れていた事など類似する点も多い．　スイスで可能であった事が日本でできない事はないであろう．スイスはある時期に将来の日本の政治モデルとされた時があったが　その他の多くの面でわれわれが参加すべきことがあるように思われる．　たとえば保守的な社会体質の中で社会的摩擦なしに　研究者　技術者の人事運営に第一級の進歩性を保持している秘密など．　この小文がわが国の地質学の発展に些少なりとも役に立つところがあれば幸である．

（筆者は燃料部　現在スイス国留学中）

第58図　スイス最高の山　モンテ・ローザ　4,634m　イタリアとの国境にそびえるこの山は　ユングフラフやマッターホルンほど有名ではないが　重厚な山容と巨大な氷河はスイスアルプス第一の高峯の名にはじない